

9	尾北	扶桑町立高雄小学校	カマタ ヨシヒロ
			氏名 鎌田 吉博
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

研究題目

「関わり合う中で気付きや考えを言語化する力を身につけることを通して、人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げることができる児童の育成」

1 主題設定の理由

本研究は2023年の6年生で実践した。学級の子どもたちは話す意欲が高く、話し合いの授業では思ったことを次々に話す姿が見られる。しかし、自分の考えを述べるに留まることが多く、じっくり考えて話したり、相手の考えを聞いたりして自分の考えを新たにしている児童は少ない。

4月の様子を見ると、自分の伝えたい思いや考えを発言する児童が多くいたが、根拠をもって話す児童は少なかった。その上、前の児童の発言を受けて共感したり質問をしたりする子も少なかったため、物語を読む際に、読みを深める様子が見られなかった。そこで1学期の「風切るつばさ」では、登場人物の心情を読み深めることにつながる言葉に着目し、自分の考えをもたせること、また、それを基に仲間と話し合う中で自分一人ではたどり着けなかった気付きや考えを言語化し、人物の人間性や心情について読み深め、自分の考えを広げることができるように育てたいと考え、実践を行った。そうすることで子どもたちが、登場人物の心情を読み深めることにつながる言葉に着目し、自分の考えをもつ力と仲間と関わり合う中で自分一人ではたどり着けなかった気付きや考えを言語化する力を身に付けることができれば人物の人間性や心情について読み深めることができるのではないかと考えた。そして、自分や他の児童の読みの深まりを実感することで自分の考えをさらに広げることにつながるのではないかと考えた。

ただ、この実践は継続して行わなければ、子どもたちの力を育てることは難しいと考えた。そこで、本単元「海のいのち」でも1学期に引き続き、他との関わり合いの中で気付きや考えを言語化する力を身に付けることを通して、人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げることができるように研究を構想した。

2 研究の構想

(1) めざす児童像

以上のことから、「関わり合う中で気付きや考えを言語化する力を身につけることを通して、人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げることができる児童の育成」を研究主題とし、次のような児童を目指して本研究に取り組んだ。

《めざす児童像》

- ・登場人物の心情を読み深めることにつながる言葉に着目し、自分の考えをもつことができる児童
- ・他との関わり合いの中で気付きや考えを言語化し、人物の人間性や心情について読み深めることができる児童
- ・自分の読みの深まりを実感し、さらに自分の考えを広げることができる児童

(2) 研究主題に迫る仮説と手だて

仮説	仮説に対する具体的な手だて
1 キーワードとなる言葉に着目しやすくすれば、本文のどの叙述を基にして読み取ったのか根拠を明確にして話し合いに臨むことができるだろう。	① 一人読みの初めに課題について分かる行動描写や内心表現・情景描写に注目させる。事前に叙述を様子・動作・気持ち・セリフに分類（ラベリング）しておく。そのような叙述がキーワードになると伝えることで、キーワードとなる言葉に着目しやすくする。
2 自分の考えを整理したり、立ち止まって考えたりする機会をつくれれば、気付きや考えを言語化したり、自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みを深めたりすることができるだろう。	① 授業の始めに必ずペアトークの時間を設定し、対話から自分の考えを整理する機会をつくる。話し合いの前に自分の考えを整理して、言語化した自分の意見を相手に伝える準備体操をする。 ② 話し合いの中で、特にポイントとなる叙述に着目し、話題を焦点化する。その際、グループトークの時間を設定し、話し合いの中で自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みの深まりを促し、学びを深める。
3 変容した気付きや考えを可視化すれば、自分の読みの深まりを実感し、さらに人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げるきっかけづくりができるだろう。	① ワークシートを活用して、一人読みと話し合い後の振り返りを比較し、自分の読みの深まりを実感できるようにする。 ② 初発の感想や前時の授業を振り返り、クラスの仲間のいろいろな考えや気付きを知ることで次の話し合いで、さらに人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げるきっかけづくりをする。

3 抽出児童Aの実態と期待する姿

抽出児童Aの実態

- ・話す意欲はあっても登場人物の心情を読み深められるような言葉に着目することができない。
- ・仲間と関わり合う中で考えたことを言語化して読み深めることができない。
- ・自分の読みの深まりを実感し、さらに自分の考えを広げることができない。



期待する姿

- ・登場人物の心情を読み深めることにつながる言葉に着目し、自分の考えをもつことができる。
- ・仲間と話し合う中で自分一人ではたどり着けなかった気付きや考えを言語化することができる。
- ・自分の読みの深まりを実感し、さらに自分の考えを広げることができる。

4 実践と考察

(1) 単元構想について

研究の手だてを具体化するために、単元「海のいのち」を資料2のように構想した。

「出会う」段階では、「海のいのち」という題名から内容を想像し、教材を読むことへの意欲を高める（題名読み）。また、教師の範読を聞き、振り返りで初発の感想を書き、最初の自分なりの解釈をもたせる。「つかむ」段階では、音読練習・新出漢字の練習・言葉の学習を通し、読みの基礎を培う。特に言葉の学習では、分からない言葉の意味を調べて考えさせるだけでなく、必要に応じてタブレットを活用して画像などを検索し、視覚的に理解させることで、実感を伴った言葉の理解ができるようにする。「深める」段階では、第七場面まで、それぞれの場面で学習課題を設定し、一人読みと話し合いを分けて行う。一人読みでは初めに、どんな太一について考えたいか自分たちで学習課題を設定する。ここでは、子どもの思考に沿ったためあてにするために自分たちで学習課題を決める。そのようにして、自分で考えたいという思いをもたせる。その後、課題について分かる行動描写や内心表現・情景描写に注目して線を引かせる。事前に叙述を様子・動作・気持ち・セリフに分類（ラベリング）しておく。そのような叙述がキーワードになると伝え、線を引く際にキーワードとなる言葉に着目しやすくする。その後、線を引いた叙述を基に太一のどんな気持ちが分かるかをワークシートに書かせ、本文のどの叙述を基にして読み取ったか、根拠を明確にして話し合いに臨む（手だて1①）。話し合いでは、一人読みで考えたことを話し合いの場で共有する。授業の始めに必ずペアトークの時間を設定し、話し合いの前に自分の考えを整理して、言語化した自分の意見を相手に伝える準備体操をする（手だて2①）。また、

話し合いの中で出た意見から、特にポイントとなる叙述に着目させ、その叙述から出た意見について立ち止まって考えさせる。そこから、二次発問をして話題を焦点化する。その際、グループトークの時間を設定し、話し合いの中で自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みの深まりを促し、学びを深める（手だて2②）。話し合いの最後には振り返りの時間を設定する。その際、ワークシートを活用して、一人読みと話し合い後の振り返りを比較し、自分の読みの深まりを実感できるようにする（手だて3①）。また、前時の授業の振り返りのまとめを配布し、クラスの仲間のいろいろな考えや気付きを知ることによって、次の話し合いでさらに人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げるきっかけづくりをする（手だて3②）。

【資料2】単元指導計画（14時間完了）

つ
か
む

深
め
る

「海のいのち」と出会い、感想を伝え合おう①

- ・父や与吉じいさの死でいろいろ学び、成長した。
- ・人間も海から出てきて、海に戻っていくということ。

分からない言葉の意味を調べよう②

- ・事切れていたらってどういうことかな。調べよう。
- ・銀のあぶくってどういうことかな。

お父さんと海に出ることを夢に見ていた太一について考えよう③④

- ・たった一人で潜る父にあこがれを抱いていたと思います。
- ・父の死で、クエをとって一流になりたいと思いました。

なかなかつり糸を握らせてもらえなかった太一について考えよう⑤⑥

- ・握らせてもらえなくて、焦っていると思いました。
- ・千匹に一匹と言われて、命の大切さを学んだと思います。

自然な気持ちで顔の前に両手を合わせる事ができた太一について考えよう⑦⑧

- ・自然な気持ちだから、心が強くなっていると思います。
- ・過去は絶望だったけど、今は乗り越えて強くなっていると思います。

嵐さえもはね返す屈強な若者になっていた太一について考えよう⑨⑩

- ・たくましい背中成長した証だと思います。
- ・太一は与吉じいさから一番影響を受けたと思います。

碇を下ろし、海に飛び込んだ太一について考えよう⑪⑫

- ・父よりもすごい漁師になりたいくてふつうのクエに興味をもてなかったと思います。
- ・瀬の主を倒して父を越えたかったから、瀬の主にこだわっていたと思います。

クエに向かってもう一度笑顔を作ってみせた太一について考えよう⑬⑭

- ・父の復讐と与吉じいさの教えで葛藤していたと思います。
- ・葛藤の末、もりを打たなかったと思います。

主体的に読ませる工夫

本文を読んだ感想を交流し、これからみんなで読み合いながら太一についてより考えたいという思いをもてるようにする。

語句や語彙を豊かにする工夫

物語を想像しやすくするために、分からない言葉を辞書で調べたり、タブレットで画像を検索したりする。

主体的に読ませる工夫

課題について分かる行動描写や心内表現・情景描写に注目して線を引く。事前に叙述の様子・動作・気持ち・セリフに分類（ラベリング）しておくことで、線を引く際にキーワードとなる言葉に着目しやすくする。その上で話し合い、言葉に着目する視点をもって傾聴し、自分の考えを広げたり、深めたりする。

伝え合う場の工夫

話し合いで出た意見から、特にポイントとなる叙述に着目させ、その叙述から出た意見について立ち止まって考える。そこから、二次発問で焦点化し、その部分をグループトークの場を設定して全員で考え、学びを深める。

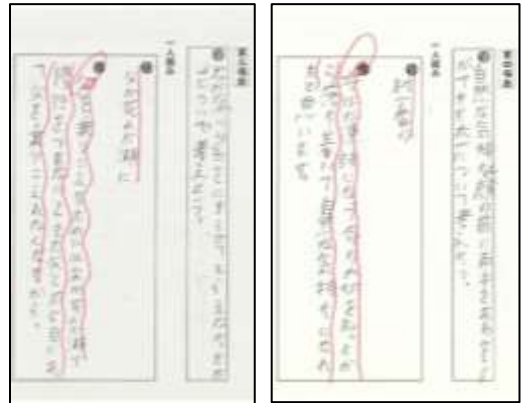
振り返る場の設定

学習の最後に、焦点化した部分について振り返り、まとめを書く。その際、ワークシートを活用し、一人読みと話し合い後の振り返りを比較し、学びの深まりを感じられるようにする。

(2) 短いキーワードから主人公の変化を読み深めていく児童A

第三場面では、「なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった太一」について考えた。一人読みで1時間、話し合いで1時間それぞれ時間を分けて行うことで一人読みでは教材と対話し、話し合いではクラスの仲間と対話できるようにじっくり時間を確保した。また、2学期までに叙述を様子・動作・気持ち・セリフに分類（ラベリング）する作業を行ってきたことで、一人読みの際に本文の短いキーワードに着目し、その叙述を基にして、なぜそのように考えたのか根拠を明確にして意見をもつことが叙述を基にして、意見をもつことができるようになった（手だて1①）。

【資料3】児童Aのワークシート



児童Aも一人読みの際に第三場面では「父が死んだ瀬に」に着目し、「父を乗り越えるために父が死んだ瀬で修行を積まないとまた父と同じ目に遭って父を乗り越えられなくなるから」と考えた。また、第四場面では「村一番の」に着目し、「おとうには相当なあこがれもあったし、まだ心も強くなっていなかったから絶望のような感じになったけど、今は海のいのちの大切さも知って心も強くなったから自然な気持ちで入れた」と考えた【資料3】。ラベリングをしたことにより、キーワードとなる言葉に着目しやすくなり、本文のどの叙述を基にして読み取ったのか根拠を明確にして話し合いに臨むことができたとわかる。

(3) 自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みを深めていく児童A

授業の始めに、必ずペアトークの時間を設定し、対話する機会をつくった。一人読みでもった考えをペアの相手に伝える。その際、30秒間は話し続けるルールを設け、もしも会話がなくなかった場合はペアの相手が質問し、30秒間経過するまで話し続けることを毎回行った。話し合いの前に自分の考えを整理し、言語化した意見を相手に伝える準備体操をしたことで、話し合いに参加する意欲を高めることができた【資料4・5】。児童Aもペアトークで自分の考えを述べ、質問に答えるなどをしながら考えを整理する姿が見られた。初めのうちは自分の考えを相手に伝えることが上手くできなかった児童Aも毎授業でペアトークを繰り返し行い、クラスの仲間と対話する準備体操をしたことで第三場面に入った頃にはクラスの仲間に、一人読みでもった自分の考えを相手に上手に伝えることができるようになった。

【資料4】ペアトーク



このようにペアトークによって、仲間との対話と自分の考えを整理する機会をつくり、言語化した自分の考えが相手に伝わるような話す力をつけることができた。

ここまでの学びを経て、児童Aは一人読みの際に自分の前時までの振り返りを確認

する姿を見せるなど、自身の読みの深まりを実感するようになっていた。クラスの児童も物語を読む中で気付いたことをクラスの仲間に言語化して伝えようとする意欲が高まって

【資料5】ペアトークの様子

- c 1 : 「父が死んだ瀬に」線を引いて、父を乗り越えるために父が死んだ瀬で修行を積まないとまた父と同じ目に遭って父を乗り越えられなくなるからと考えました。
- c 2 : なるほど。父を乗り越えるために修行しようと思ったんだね。
なぜ乗り越えようとしたと思う？
- c 1 : 乗り越えないと父のようにクエを捕ることができずに死んでしまうからだと思う。

いた。

【資料6】グループトーク

山場の第七場面では、「クエに向かってもう一度えがおを作ってみせた太一」について考えた。話し合いを進めていく中で太一は泣きそうになったのにもかかわらず、もう一度笑顔をつくったところに着目して考える児童がいた。そこで、教師は「なぜ一度笑顔をつくって、その上殺さなかったのか？」と投げかけ、立ち止まって考えた。グループトークで「なぜ殺さなかった？」かを話し合う中で、初め「笑顔を作ること



の復讐心や父を超えたいという思いをごまかした」と考えていた児童Aは、児童U・児童K・児童Fとグループトークを進めていく中で、「殺さなかったのではなく、殺せなかった」「一人前になりたい気持ちと海のいのちを守りたい気持ちにけじめをつけて殺さずにすんだ」という考えを聞きながらうなづいている様子が見られた【資料6・7】。

このように、グループトークの時間を設定したことは、話し合いの中で自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みが深まりを促し、学びを深めるきっかけになった（手だて2②）。

（4）読みの深まりを実感し、さらに

人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げていく児童A

授業のまとめで書く振り返りでも、児童Aの読みの深まりが見られた。

第七場面の一人読みでは「笑顔を作って、クエへの復讐心や父を越えなきゃだめという心をごまかした」と書いていた。それがグループトークを終えた後の第七場面の振り返りでは、「海のいのちであるクエを父の仇という私情で殺さないことが本当の一人前の漁師になれる条件だと思う」と振り返り、前時までのクエを捕ることで一人前になろうとしていた太一がクエを捕らないことで一人前になっていくという太一の変化に気付いた【資料8】。

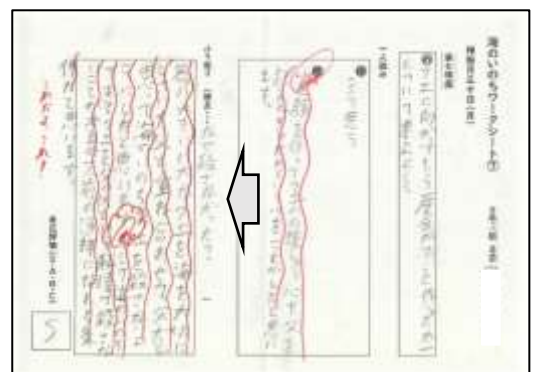
毎回、ワークシートを活用し、一人読みと話し合い後の振り返りを比較し、自分の読みの深まりを実感できるようにした（手だて3①）ことで、児童Aは自分の一人読みを踏まえ、「自己評価がSだった」と振り返ることができた。このことから、自分の読みの深まりを実感し、人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げることができたとわかる【資料8】。

また全体を通して見ると、ペアトークで話し合いの前に自分の考えを整理して、言語化した自分の意見を相手に伝える準備体操をし、そして、話し合いの中で出た意見から特にポイントとなる叙述に着目し、その叙述から出た意見について立ち止まって考え、グループトークで自分一人ではたどり着けなかった次元までクラスの仲間と読みを深めるという一連の流れを毎場面、繰り返し積み重ねてきたことで、クラスの児童はいま何を考えれば

【資料7】グループトークの様子

T : なぜ殺さなかったと思う？
児童A : 笑顔を作ってクエへの復讐心や父を超えなきゃだめという心をごまかして殺さなかったと思う。
児童U : 殺してしまったら、一人前の漁師にはなれても、一人前の人間にはなれないと思ったから、殺さなかったんじゃないかと殺せなかったと思う。
児童K : 殺してしまうと海が守れなくなってしまうから、自分より他の人のことを優先したいという太一の優しさで殺さずにすんだ。
児童F : 一人前になりたい気持ちと海のいのちを守りたい二つの気持ちがあって、父がクエ（海のいのち）であるとそう思うことで、けじめをつけて殺さずにすんだと思う。
児童A : ああ、なるほど。

【資料8】児童Aのワークシート



よいのかを明確に理解し、お互いの意見をつなげたり、他の児童の意見から考えたりするなど、活発なやりとりを行い、授業をつくるようになっていった。

5 成果と課題

(1) 仮説1

本文の叙述に線を引き、キーワードとなる言葉に着目しやすくすれば、本文のどの叙述を基にして読み取ったのか根拠を明確にして話し合いに臨むことができるだろう。

〈手だて①についての有効性〉

ラベリングを行ったことで児童Aが短いキーワードに着目し、その叙述を基にして、なぜそのように考えたのかを根拠を明確にして意見をもち、話し合うことができた姿から、手だて1①は有効であったと言える。

(2) 仮説2

自分の考えを整理したり、立ち止まって考えたりする機会をつくれば、物語を読む力と気付きや考えを言語化したり、自分一人ではたどり着けなかった次元まで読みの深まりを促したりして、学びを深めることができるだろう。

〈手だて①についての有効性〉

児童Aは自分のペアの児童とペアトークを行い、自分の考えを述べ、質問に答えるなどしながら考えを整理する姿が見られたことから手だて1①は自分の考えを整理したり、立ち止まったり考えたりするために有効だったと言える。

〈手だて②についての有効性〉

グループトークで「なぜ殺さなかった？」かを話し合う中で、初め「笑顔を作ることでクエへの復讐心や父を超えたいという思いをごまかした」と考えた児童Aは、児童U・児童K・児童Fとグループトークを進めていく中で、「殺さなかったのではなく、殺せなかった」「一人前になりたい気持ちと海のいのちを守りたい気持ちにけじめをつけて殺さずにすんだ」という考えを聞きながらうなづいている様子が見られたことから手だて2②は学びを深めるために有効だったと言える。

(3) 仮説3

変容した気付きや考えを可視化すれば、自分の読みの深まりを実感し、さらに人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げるきっかけづくりができるだろう。

〈手だて①についての有効性〉

児童Aが自分の一人読みと本時の振り返りを比較し、考えが深まった事実を「自己評価がSだった」と記したことから、自分の読みの深まりをワークシート上で実感したことがわかる。毎時間の振り返りで一人読みとの比較を行い、自己評価をしたことは物語全体を通して太一の心情をより深く考えたいという思いにつながった。

以上から、手だて3①は自分の読みの深まりを実感するために有効であったと言える。

(4) 今後の課題

本実践によって、手だて3①について、ワークシートで自他の変容した気付きや考えを可視化して、自分の読みの深まりを実感し、さらに人物の人間性や心情を読み深めるきっかけづくりをすることができた。ただ、自分の考えを広げるきっかけづくりについては、児童A本人自身がそこに気付いて自分の考えを広げ、その後の生き方を考えるまでには至らなかったため、児童A本人が考えを広げる具体的なきっかけづくりが必要だと感じた。

今後は児童が関わり合う中で、気付きや考えを言語化する力を身につけることを通して、人物の人間性や心情を読み深め、自分の考えを広げられるよう、手だてを再考し、物語を読む力をつけていきたい。